

～ 旅 姿 五 人 衆 ～

私は（とと：51才）は、家内（かか：39才）と子ども二人（お姉ちゃん7才・弟3才）と週末に外泊してくる家内の母（ぼあば）との五人家族で暮らしています。

私は、日頃より「人は肩寄せ合って生きた方が楽！（楽しい）」とっているので、これでやっと五人衆となりました。

当然ですが我が家の始まりは、家内との出会い、二人から始まったわけですが、そりゃ、出会った頃は、今とは全く暮らしぶりは違いました。休日は喫茶店のモーニングから始まり、その時間はゆとりをもって流れます。音楽はジャズを聞いたり、本を読んだり、時には温泉につかったりと、それはそれは時はゆったりと流れました。

ただ、家内とのライフワークの中に、どうしてもはずせないキーワードとして、“子育て” というものが常にありましたので、そういうゆったりと流れる時間の中でも、不妊治療なども受けましたが、なかなか私たちのキーワードの“子育て” という事にたどりつきませんでした。そういう中で、ふと目に止まったのが“里親” という制度でした。

さっそくお話を聞き、すぐさま登録。そしてお姉ちゃんとの出会い。悪戦苦闘しながらも「兄弟がいたらいいな」と感じつつ、次は弟との出会い。なかなか首がすわらない。発語が遅いといろいろ考えながらも、今は、二人とも、軽トラックの屋根に乗ったり勢い余って坂之下の防火水槽に自転車ごと、つっ込んだりと、この自然を謳歌しつつ、暮らしています。

そう、言い忘れましたが、我が家は都会には近いのですが（市役所から5kmくらい）、熊以外の動物にはちょくちょく出会えるくらいの田舎で、田畑をしながら暮らせるという環境です。そういう環境ですので、子ども達も、普通に「草刈り」とか「耕運機」とか「精米」という言葉が出ます。聞いてて笑えます。今、竹の1m位の切れ端しを振り回しながら「とと、見て！草刈～」と叫んでいる姿を見ながら、おかしいやらたくましいやら、楽しい気分させてくれます。もちろん、兄弟げんかもします。たいてい、お姉ちゃんが泣きますが、いざ弟がぐずったりしているとお姉ちゃんぶりを発揮します。そんな姿を見ると、「兄弟だな～」なんてつくづく感じます。

今もこうして、子どもたちの無邪気な声を聞いていると、いつまでも、子の声が続きますように、と感じずにはおれません。また、もっと多くの声が重なりあい、楽しい、力強い輪になっていくといいな～と思います。

お姉ちゃんは最近、「もっと、もっと、家に子どもが集まる家になるといいね」

と言います。きっと子どもなりに、多くの子と接するのは楽しいと感じているのだと思います。子どもの人を無条件に受け入れるという、心の柔軟さに驚かされます。そして、この心の柔軟さに後押しされつつ、特養や養育の枠を超えて、「どの子ども、どの子ども、みんな集まれ」という気持ちにさせられます。本来、人とは、こういうものなのかもしれません。こんな事を子どもの何気ない一言から教わります。

今、地球規模では環境問題、原子力の問題、内戦等々、いろいろな問題を抱えています。どうでしょう、せっかく、今のこの時代をともに生きているのですから、みんなで肩寄せ合ってみては！そんなことを子ども達は、私達に、ある意味、示しているのではないのでしょうか。

子ども達の、この素直に、楽しそうな姿を見ていて、「鼻の奥がツーン痛くなるようなこの感じ」これこそが、今の私の原動力であり、この子らに出会えたよろこびです。この家族に出会えた感動です。